

# 大好き! 幾春別川

DAISUKI! IKUSYUNBETSU RIVER

2007(平成19年)6月24日(日曜日) (1)

VOL.18

●発行誌 ●年4回発行 ●部数:5万部 ●配布エリア:岩見沢市・三笠市・美幌市

発行元:幾春別川ニュース編集委員会  
編集委員長 嵯峨 義輝

〒068-0007  
岩見沢市7条東9丁目 石狩川開発建設部岩見沢河川事務所内編集委員会事務局  
TEL:0126-23-9555 FAX:0126-25-1697



## 4月 大海原へ向けて 旅立ちの季節

4月上旬から中旬にかけて三笠市と岩見沢市でサケの稚魚放流壮行会が開催されました。それぞれの壮行会の様子をお伝えします。



三笠で育ったサケ



## 三笠と岩見沢で「サケの稚魚放流壮行会」を開催

昨年12月、北海道立水産孵化場から引き受けたサケの発眼卵が、岩見沢市と三笠市の小学校や企業など64団体に配布されました。そして、4ヶ月近くかけて大切に育てられたサケの稚魚たちが成長し、ついに大海原へ向けて旅立ちました。

三笠市では4月上旬、清住町にある「水辺の楽校であい」など、市内を流れる幾春別川の6ヶ所で放流事業を行いました。小中学生約130人が参加し、「元気でね」などと声をかけながら、約2,100匹の旅立ちを見送りました(上)。

岩見沢市でも4月12日、幾春別川をよくする市民の会の主催で稚魚の放流壮行会が開催され、約750名が参加しました。約15,500匹の稚魚が一斉に若松町の幾春別川に放流されました。



岩見沢で育ったサケ



エゾフクロウ

### エゾフクロウ「留鳥」・コノハズク「夏鳥」(フクロウ科)

私自身知っている、毎年見られる場所は管内で二カ所しかありません。森はもちろんだと、神社やお寺、防風林などの小さな森にも居ましたが、近年は見かけることが少なくなりました。生息場所が少なくなってきた、これらの野鳥たちが安心して暮らせる環境が戻ることを期待したいですね。

コノハズクは、フクロウのなかでも手の平に5cmほどの、一番小さいフクロウです。

コノハズクは、フクロウのなかでも手の平に5cmほどの、一番小さいフクロウです。初冬から春にかけて、餌を求めて電信柱や河畔林に止まっているのを見かけるときがあります。幾春別川上流で一度幼鳥を見たとき、愛くるしい目と仕草にホッとした時がありました。

エゾフクロウは「森の哲学者・森の番人」という愛称で昔から親しまれているフクロウです。普段、森の中で暮らしておりますが、初冬から春にかけて、餌を求めて電信柱や河畔林に止まっているのを見かけるときがあります。幾春別川上流で一度幼鳥を見たとき、愛くるしい目と仕草にホッとした時がありました。

### 流域の鳥たち 1

写真家 若林 信男  
(わかばやし のぶお)  
岩見沢市在住



コノハズク





児童たちの感想イロイロ

- 「産まれた瞬間を見ることができて良かった」
- 「無事に産まれて、そして放流できて良かった」
- 「家では生き物を飼うことができないので、とてもいい勉強になった」
- 「泳いでいる稚魚はきれいで、見ていると癒される」

さけっ子クラブ設立の経緯…!

放流は平成4年度から学校教育の一環として取り組まれましたが、残念ながら「さけっ子クラブ」の設立のいきさつに関しては不明です。けれども、担当の先生が代わっても「サケを守り育てる」という精神は代々受け継がれ、児童の自主性を育みながらの飼育活動は現在に至っています。

大変よくできました!



13人の児童全員が毎日交代で記録を付けた観察日誌。サケの様子が細かく書かれています!

今年もたくさんサケの稚魚を放流したヨ!

~三笠市立美園小学校「さけっ子クラブ」のみなさん

三笠市立美園小学校では、先生の指導のもと、受精卵の受け取りから放流までの約4ヶ月間、児童たちは日々稚魚の成長を観察し記録を取ったりして飼育をしてきました。その「さけっ子クラブ」の様子をご紹介します。

サケを育て終えて—感想文

**●部長 酒井美奈**  
初めてサケの赤ちゃんを育てました。美園小には約400粒のサケの卵がやってきました。毎日水温や変化をノートに記録しました。卵にも色々な変化がありました。例えば卵から黒い目が見えたり、卵が動いたのを見ていました。ふ化したときはとてもうれしかったです。サケは目が大きく、おなかには養分が入っている赤い袋をつけていました。この袋があるときにはエサをあげません。1月になると、おなかの袋はなくなり、エサをあげ始めました。

**●副部長 高根 颯**  
2006年12月11日(月)から観察を始めました。最初は朱色の丸い卵でした。卵の数はおよそ400粒です。12月18日は変化がないような気がしました。12月28日、卵からようやくサケの稚魚が産

まれました。産まれる場面も見ました。2007年1月22日には、なぜか稚魚が水槽の端っこに集まっていた。稚魚は隠れ場所を探しているように見えました。産まれたときにはおなかに袋がついていたのに、1月29日に観察したときには袋が無くなっていました。その後もしっかりと観察しました。放流したときは元気だったので、今も死なずに元気で泳いでいると思います。



特別なことはしていませんが、次の3点に気をつけると上手に育てられると思います。

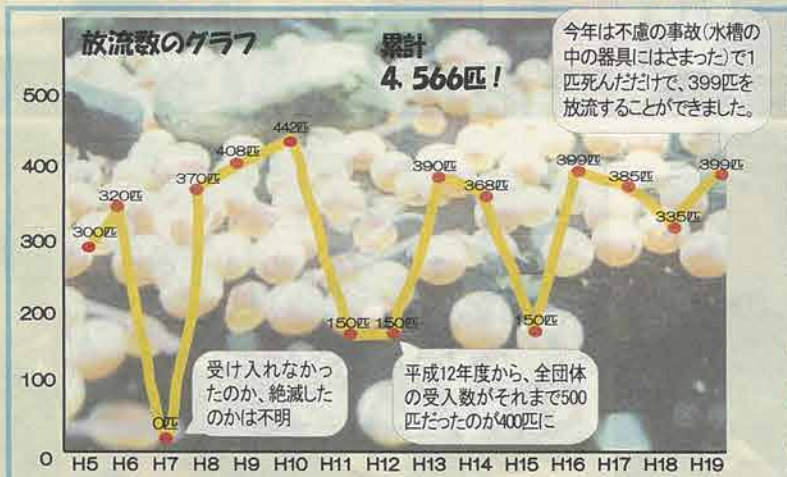


白井 満寿子 教頭先生

「さけっ子クラブ」飼育の3つのポイント!

- 1 「温度管理」 常に8℃になるように気をつける。
- 2 「エサやり」 朝1回、スプーン2杯分だけ。水槽の下に残っているエサの量を見ながらやる。たくさん残っていれば量を減らして調節。エサをやり過ぎないようにする。
- 3 「水槽の水の交換」 水道水の温度を8℃にするために貯めておき、半分ずつ交換する。

「大きくなったらまた会おうね!」



熱演を見せてくれた第一小の児童たちによる演奏(下)



ちからを合わせて、利根別川をきれいにしよう! 第17回 利根別川クリーン・グリーン作戦2007 5/19に開催

岩見沢市内を流れる利根別川の周辺を市民自らの手できれいにする「第17回クリーン・グリーン作戦2007」が5月19日に開かれました。「利根別川をきれいにする市民の会」が毎年5月に開催している恒例の行事です。あいにくの小雨でしたが、約1,200人の市民が参加し、川沿いのごみを拾ってきれいにしていきました。はぎその緑地(9条西5丁目)で行われた開会式

では第一小のスクールバンドによる「となりのトトロ」などの演奏も行われました。また、終了地点のガーデンテラスでは、苗木や花などを販売する「花と緑のマーケット」も開催され、にぎわいを見せていました。市の担当者によると、毎年平均で3トンほどのごみが回収されているそうです。今年も開会式のあと、早速、捨てられていた自転車が高校生たちの手によって川から引き上げられていました。



沙智子の体験 ポート



幾春別川探検隊!

今回は「ラフティング体験」をご紹介します!

■今回から、北海道教育大学岩見沢校スポーツ教育課程 アウトアライフ専攻2年、花田沙智子(はなだ さちこ)がレポーターとして、幾春別川流域の川と関りの深い施設をご紹介します。どうぞお楽しみに!

今回の案・内・人

NPO法人 三笠森水遊学舎



たかしの 高篠 かずのり 和憲さん

川はみんなの財産。川遊びの楽しさを多くの方と共有したいですね。私たちのNPO法人では、将来、一般の方にも遊んでいただけるようなプログラムを検討中です。乞うご期待!

【ひとまたぎの瀬に シャンプー!】

中世代白亜紀と新生代第3紀が5000万年の時を経て断層となり、自然の瀬となっているのです。サイクリングロードの覆道があるすぐ下流で、「ひとまたぎ5000万年」と名付けられることから「ひとまたぎの瀬」と呼ばれています。



川遊び、サイコー!

わたしたちの活動紹介

Part. 5

川を中心とした活動を展開する仲間たちをご紹介します。

■三笠市

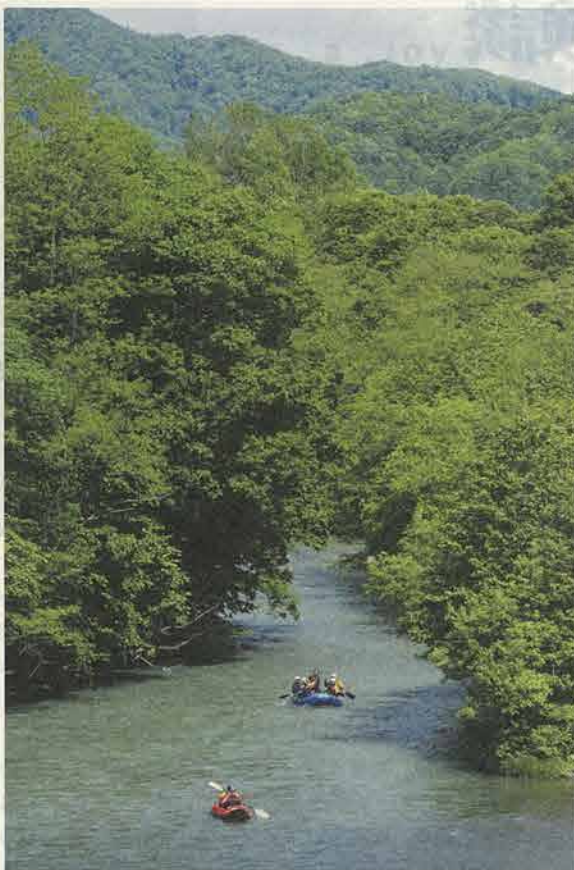
NPO法人 三笠森水遊学舎



幾春別川(三笠市西桂沢)の瀬にてラフティング

幾春別川は上流にダムがあるため(5月〜8月まで)かんがい用水を放水。水量が安定しており、カヌーなどの川遊びには最高のフィールド! キャンプ場や温泉もあり、施設も充実しています。全国から大勢の...

ヌーリストがやって来る「メッカ」なのです。これからのシーズンは大会も開催され、ますますにぎやかになる幾春別川。ひと足先に、川遊びの醍醐味を堪能してください!



【栗丘橋の上】 上流の国有林の山を背景に河畔林の緑が美しい。幾春別川の上流は、森が豊かです。緑豊かな河畔林の中、まさに森林浴、森林セラピー!

爽快! 水しぶきを上げて瀬に突っ込む! 右手前に乗っているのが花田レポーター! 同乗者は、豊田北穂さん、渡部寛子さん、松原晃子さんの3人!



【1cupの瀬】

カヌー競技「幾春別川カップ」のスタート地点にちなんで付けられた瀬の名。カヤックのフリースタイルを競うスポットで、縦・横回転あるいはサーフィンをして遊べます。今回ラフティングで挑戦し、見事に1名が流れにつかまれ、泳がされてしまいました...

【西桂沢の通称「神居古潭」の渓谷】

左岸にはサイクリングロードがあり、今は新緑、秋には紅葉が美しいのです。岩肌もきれいで、もう少しするとエソミソハギやダイヤモンドシソウも咲き乱れます!



全長7kmのコースをお昼ご飯をはさんで下ってきました! ちょっと筋肉痛~!!

沙智子の感想

何度か幾春別川に来たことがありますが、今回は最高の天気で楽しかった! ラフティングのおもしろさは何と言っても、泡立つ瀬にも果敢に入っていく、みんなでスリリングな旅を共有できること。川の流れるラフトポートを伝わって身体まで揺れる。まるで自然のジェットコースター! 「ちょっと怖い、でもワクワクしちゃう」という不思議な感覚は、自然とつながっていたいから? このように、今も川には豊かな文化があります。そして、気持ちも豊かになれるラフティング。あなたも一度体験してみませんか?

読者のおまひから

岩見沢市在住 山本 信男さん



川とわたしの思い出

(前回の続き)

この川は通称「しぶ川」と言っていた。泥炭地を流れてくるため、水が茶褐色になっていた。カニ釣りに、そう呼ばれていたものと思う。この川には沢山のカニが生息していた。カニの種類は不明だが、多分「タニシ・トウモロコシ」をつけて水中に沈めると...

「しぶ川」(産化美川)でのカニ釣り



今も幾春別川流域にはモクスガニが生息しています

きおりのける方法。もう一つの方法は、エサ(タニシ)を針金に通し、輪にして水中に下ろす。数分のうちに、カニがエサに喰いつく。静かに引き上げて、手でつかむ。面白いほど、よく釣れた。川底にはどれほどのカニがいたのか、不思議なくらい釣れた。

カニはゆでたり、味噌汁にして食べた。また、豚のエサにもした。生きたままのカニを豚にやると鼻をかじられるのか、豚がキーンキーンと鳴き声をあげるのがおもしろかった。

カニが20〜30匹釣れると、得意げに家に帰ったものである。



ツリーイングに挑戦! 木の上には別世界が広がっています!



三笠遊園のそばにある天然林に、この森の主としてスラリと立っている「桂沢のミズナラ」。推定樹齢は不明...!

21世紀は環境の時代と言われ、川源流探検なども開催し、地域自然環境に関心が高まっています。の活性化にも努めてきました。小中学校でも総合学習を取り入れられていますが、現実には「森は危険な所」という認識がままら目的で、昨年新たにNPOを設立した。今年までの水辺の事業のほかに森林体験や、森林資源のリサイクルのメニューも増やしています。会川・緑を愛する会」は、川に関する事業として「幾春別川クリーンアップ作戦」「トムソーヤキャン」などで、ラフティング、カヌー、釣りの教室を開催してきました。自然を学び、遊び、活動できる仲間を募集しています。さうに「幾春別川のマップ作成」「水辺の楽校サミット」「三笠の森と巨木ウォッチング」「幾春別川」 堀川林業(株)内 事務局 駒田 暁 01267-6-8051



流域の人と歴史

洪水体験談 VOL. 5

消防団員として水防活動に参加。生涯忘れられない昭和50年と56年の洪水

昭和34年生まれの私は、数回、水害の体験をしています。住まいは石狩川と旧美唄川の合流する中州にあり、昭和32年までは石狩川寄りに30軒ほどの集落、役場や農協、郵便局と旅館もあり大変賑やかだったと聞いております。

それがなぜ移転したのか。地域は水害の常襲地帯で、春の雪解け水に始まり、夏の台風による大雨で苦しめられたと聞かされています。

新しく堤防が出来るため移転することになり、住宅を現在の場所に曳きまわしをしてもらい、新しい家と合体させて現在の家となりました。家族は喜んでいました。私は3歳になり、可愛い盛りであったと思います。

ところがその年、床上浸水1m20cmという水害に！ 家族全員2階へ避難しました。私も行動範囲が広くなり、階段から落ちてしまい大騒ぎに。「大変！「ひろ」が落ちた！」と父の妹が泥水に飛び込んで助けてくれました。その後も何度となく水害が起こ

りました。いざ災害が来ると冷静に行動できず、父もトラックのフロントローダで自家用車に穴を開けてしまいました。あの時の父の慌てようは大変でした。

私が高1のとき再び水害になり、岩見沢農業高校の寮から急いで帰宅。途中開基橋から家を見ると、まだ水は来ていなかったのですが、視線を北都地区に向けてと一面水浸しでした。「家に水が来るのは時間の問題」と急いで帰ると、家では親戚たちが農機具の移動や、乾燥機のモータの取り外しに手伝いに来ていました。間もなく、水は滝のような勢いで自治会の境界と村道を超え、家は床上30センチほどまで浸かりました。

翌日の夜、異様な雰囲気を感じて堤防に行くの大勢の人たちが集まり、堤防を掘り始めていました。内水の出方が極端に悪く、作物を冠水させないために取った苦肉の手段でしたが、当時の関係者は後でかなり注意を受けたそうです。

昭和56年、北村市街地や岩見沢月形線の農協から役場周辺まで広域な水害に。消防団員として、避難所にいる人たちの食料調達に大型ダンプで農協へ買出しに出かけました。ところがエアークリーナーから水を吸い込んでしまい、駄目になることもありました。堤防から水漏れしているところに、土のうを積んで警戒していました。水位も堤防すれすれで、車両で移動するときは、かなり恐ろしいものでした。対岸を見ると水面が盛りあがって見えました。水の引いたあとには麦わらが水田の稲を覆い、流木やごみなどいろいろなものが残っていました。



昭和56年の洪水で増水した石狩川(北村)

水は高い所から低い所へ流れるのが自然の摂理です。56水害からはありませんが、北村地域は旧岩見沢市、美唄市、三笠市などからの排水が流れ込む所です、昭和56年以降水害は起きていませんが、北村地域は旧岩見沢市、美唄市、三笠市などからの排水が流れ込む地域で、毎年内水で苦労している地区もあります。

その後、国土交通省の理解と近隣市町の協力で内水排水機場の整備もされて大きな被害はなくなりましたが、近年の府県や日高地域の洪水を聞くと、北村地域も心配になります。

今年、石狩川の整備計画が出されました。「北村地域遊水地」は当初2,000町歩でしたが、計画の半分になるとのことで、流域関係地域と北村地域の水害が起きない場所になってほしいものです。

以上が私の経験です。最後に、治水計画を地域の皆さんとともに協力し、一年でも早く実現していただきたいと思います。



NPO法人 山のない北村の輝き 副理事長 瀬川 洋

写真募集 あなたの好きな水辺の風景を写して、本紙事務局までお送りください！

応募内容

プリント、デジタル、ポジフィルムなど形態は自由です。写真のほかに、川への「想い」を100文字程度にまとめて、下記のおたより欄に記載してある住所までお送りください。本誌「大好き! 幾春別川」に掲載させていただきます。※1人何点でも応募できます。また、写真の返却はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

お知らせ!

「幾春別川をよくする市民の会」が、新たにNPO法人の仲間入り!

流域の3市民団体すべてが、NPO法人として認定されました!

NPO法人幾春別川をよくする会

- 会員数: 個人165人、39団体、12町内会
●理事長: 嵯峨義輝 ●副理事長: 馬淵智康、臼杵努
●事務局長: 西方洋昭

NPO法人三笠森水遊学舎

- 会員数: 91名
●理事長: 高篠和憲 ●副理事長: 武部豊樹
●事務局長: 駒田賢

NPO法人山のない北村の輝き

- 会員数: 48名
●理事長: 石黒武美 ●副理事長: 瀬川 洋
●事務局長: 島 一雄

水辺の風景

「魚染めの滝」 三笠市 東 清明さん

夏の緑、秋の紅葉を映した滝つぼに群がった魚が、緑や紅に染まって見えることから「魚染めの滝」と呼ばれるようになりました。場所: 三笠市滝見町



おたよりお待ちしております!

本紙は、楽しい紙面を作るためにみなさまからのご意見や感想、また、今後取り上げてほしい記事の内容などについて、おたよりを募集しております。下記のあて先までおたよりをご郵送ください。

★送付先★

〒068-0007 岩見沢市7条東9丁目 石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所内 「大好き! 幾春別川」編集委員会事務局 ※ご質問の場合も、郵送またはファックス(0126-25-1697)へお願いします。

年間行事予定

フラワーライン〜初夏〜

- ・開催日: 6月27日
・開催場所: 狩野橋左岸下流付近
・主催: 幾春別川をよくする市民の会

旧美唄川河川清掃

- ・開催日: 6月30日
・開催場所: 岩見沢市北村栄町「桜づつみ公園」

主催: NPO法人山のない北村の輝き

石狩川流域交流フェスタ

- ・開催日: 7月7日
・開催場所: 石狩川下流域一円

主催: 石狩川流域交流フェスタ実行委員会

第12回石狩川下覽權 川下り

- ・開催日: 7月14・15日
・開催場所: 空知管内の石狩川及び水系
・主催: 石狩川下覽權

三笠ダムフェスタ2007

- ・開催日: 7月29日
・開催場所: みかさ遊園
・主催: 三笠ダムフェスタ2007 & みかさ遊園まつり実行委員会

親子釣り教室

- ・開催日: 7月29日
・開催場所: 奔別川(市立三笠博物館付近)
・主催: NPO法人 三笠森水遊学舎

Eポート大会

- ・開催日: 7月28・29日
・開催場所: 浦臼町鶴沼公園
・主催: 北海道Eポート大会実行委員会

桂沢トム・ソーヤ

- ・開催日: 8月4日
・開催予定場所: 桂沢湖湖畔

「川をはかる・川を見る・川を知る」〜河川調査講習会

- ・開催予定日: 9月上旬
・開催予定場所: 北村栄町「水辺の楽校」
・主催: NPO法人山のない北村の輝き